

「新たな伝統校誠之館の創造」に向けた施設づくりのあり方」及び「既存建物とのつながりを考慮した豊かな精神を育む憩い空間のあり方」についての提案

テーマ1 “新たな伝統校誠之館の創造” に向けた施設づくりのあり方

- 既存のものに新たなものを加える事によって起こる化学反応を引き出し、より一層の活力や希望が生まれる校舎づくりを目指します。
- 伝統ある豊かな建学の精神を土壌に、日本の伝統として語られる“人と人とのつながり”や“もてなしの心”が隅々まで感じられるプランづくりを行います。
- 県内でも有数の進学校として授業に集中出来る環境づくりに配慮します。

1 伝統の精神を感じる校舎づくり

歴史を感じる

- 学校の歴史や地理的な要素として関係の深い福山城とのつながりを感じるプランとして、建学の精神を伝えます。
- 福山城からのつながりを示唆する石垣を設け関係性を強調します。
- 東側連絡通路の先に南向きのテラスを設け、福山城方面のピクチャーウィンドウを確保し、視覚からの親しみを意識します。

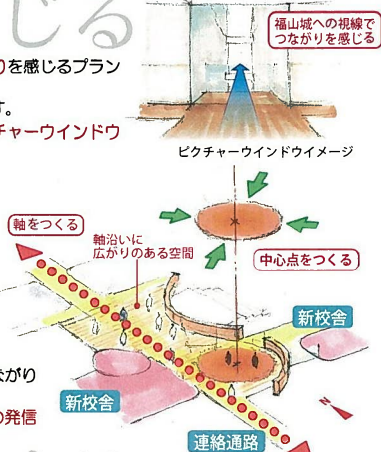
軸をつくる

- 明確な主動線を作りつながりを強調し、百数十年の歴史ある学校の道筋がおとった気風を感じるようにします。
- 見通しがよく変化に富んだ広い通路で各棟を繋ぎ、ゆとりを感じるようにします。
- 軸線沿いには誠之館のイニシャルとなるS字の石垣を設け、連続感と変化を強調するとともに、生徒の動線と来客の動線を緩やかに仕切り誘導します。

中心点をつくる

- みんなの気持ちのバクトルが向かうような中心点をつくり、つながりを感じるようにします。
- 新校舎の主動線の中央付近に中心点となるホールを設け、情報の発信ポイントや活動の起点となるようにします。

感じる



2 意欲を高める校舎づくり

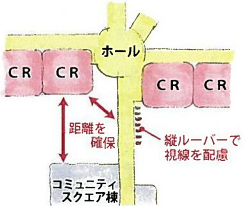
授業に集中できる教室

- 東西方向に長い校舎で南面採光の教室とし、熱環境に有利となるようにします。
- コミュニティスクエア棟に対面する新校舎部分は可能な限り距離を確保し、日照・通風・視線への配慮を行います。
- メイン通路から普通教室までを可能な限り離し、視線を遮る縦ルーバーを設け、普通教室の落ち着いた環境を確保します。

将来を見据える環境整備

- 耐震壁は最小限とし、将来のカリキュラムの変更にも対応可能とします。
- ICT環境の充実を図り、時代に合った学習形態に対応します。

高める



3 人を包み込むような校舎づくり

迎え入れる玄関

- 車寄せや思いやり駐車場に屋根を架け利便性を高めるとともに、人をやさしく迎え入れる気持ちを形にします。

ヒューマンスケールの姿 (新校舎南面をデザインする)

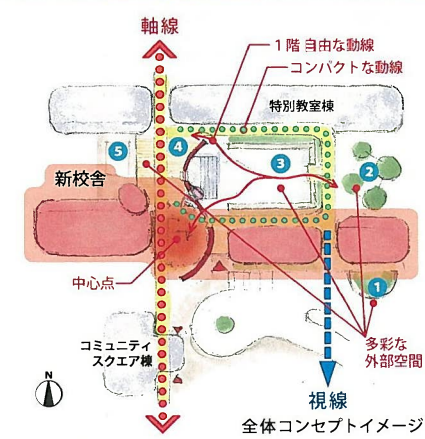
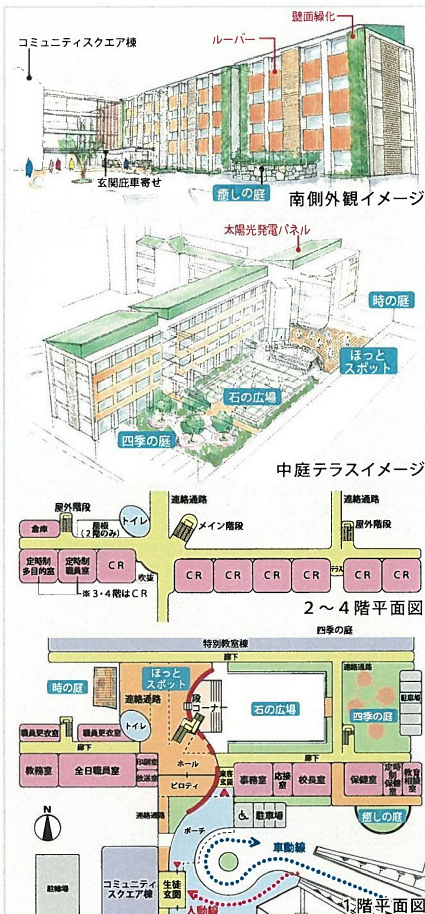
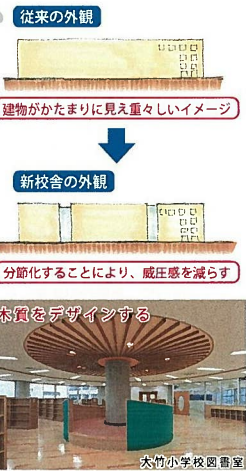
- 新校舎は1棟建てではあるものの分節化を行い、人に馴染む大きさであるヒューマンスケールに近づけ威圧感を軽減します。
- 正面の顔として既設の要素を採り入れながら、品格と落ち着きのある新しい歴史を感じるデザインとします。
- 壁面緑化・ルーバーや太陽光発電パネルをバランスよく配置し、時代の要請である環境に配慮した校舎を計画します。

圧迫感を感じない姿 (新校舎北面や連絡通路のデザインも大切に)

- 日陰面となり重苦しく単調なイメージの校舎北面は横方向のラインを強調し、高さへの印象に変化をもたらすデザインで圧迫感を軽減します。
- 連絡通路は鉄骨造の柱や梁がスマートにできる利点を生かし、軽やかなデザインで圧迫感を軽減します。

人にやさしい仕組み

- 内装や手に触れる部分の木質化を図り、温もりのある空間づくりを目指します。
- バリアフリーや万人に使いやすいユニバーサルデザインを徹底します。
- 外部アプローチは徒歩分離を可能とし、安全性に配慮します。



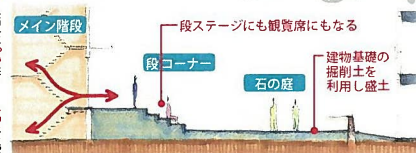
テーマ2 既存建物とのつながりを考慮した豊かな精神を育む憩いの空間のあり方

- 廊下や連絡通路は移動の時間を短縮できる動線としながら、変化に富んだ楽しい空間とし、気分転換が図れるようにします。
- 新校舎と特別教室棟に囲まれた屋外空間は、中庭だけで完結するのではなく校舎からのつながりを大切に、屋内と屋外が一体とを感じる空間とします。
- 一人ひとり個性があるように特徴のある多彩な屋外空間を設け、生徒の気持ちを優しく受け止めリフレッシュ出来るようにします。

1 スムースにつながる空間づくり

合理的な動線づくり

- 新校舎と特別教室棟を結ぶ東側の連絡通路は現在よりも内側に設けコンパクトな動線とし、移動時間を短縮します。
- 主動線沿いに視線の変化が生まれるメイン階段を設け、スムーズな上下階のつながりを作ります。
- 見通しのよい吹抜を設け、上下階のつながりを感じるようにします。
- メイン階段から直接中庭の段コーナーに行く動線を作り、活動の多様化を図ります。



内部と外部の一体化

- フルオープン出来る建具を採用し、冬期以外は内外を一体化した利用を可能とします。
- 視覚的な行き止まりをなくし、面積以上の広がりがある空間とします。



2 リラックスできる憩いの空間づくり

軸線沿いの余白の空間

- 1階の主動線に沿って半屋外のウッドデッキスペースを設け、身近なリラックス空間とします。
- 各階の通路にゆとりのあるスペースを設け、活用できるようにします。

多彩な屋外空間づくり

- 中庭の外部空間は基本的に上層き利用を可能とし、1階は中庭も利用できる自由な動線とします。
- 校舎や連絡通路沿いに多様な外部空間を設け、生徒の気持ちに寄り添ったり利用状況に応じて潤いのある生活を目指します。

1 癒しの庭 心のやすらぎを感じる

囲まれた空間で心の安定感をもたらす保健室と連携

2 四季の庭 四季のうつろいを感じる

季節を感じる花木を植え、美しい日本の四季に触れる

3 石の広場 集いの場

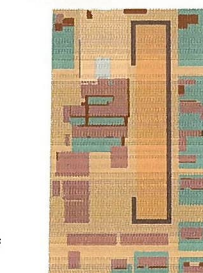
多目的な屋外集いや、発表の場として利用可能。福山城の石垣のイメージを継承。メイン階段から直接中庭階段ステージ側におりることを可能とし、中庭の利用促進。床は石と種生ブロックの組合せを検討

4 ほっとスポット 開放感を得る

主動線沿の日常的に利用出来る半屋外空間。自販機等もこの付近に設置

5 時の庭 歴史を感じる

藩校誠之館の建物配置である碁古場給図を床仕上材で表現し歴史を感じる



藩校誠之館碁古場をグラフィック化